

1 情勢報告

地域資源を活用した商品開発（鷹取キムチ！）



梶原町鷹取

4月9日、26日、鷹取キムチの里づくり実行委員会と年間活動計画及び、商品開発等について検討を行いました。

商品開発については、現在イタドリ、ウド、タケノコ等について試作を行っており、今後、関係機関で試食も行う予定となっています。また、キムチの原料となる白菜では、用途別白菜を試験的に栽培することにしました。

県が主催する6次産業化研修会や生産管理高度化研修へも意欲的に参加する方向ですので、農業振興センターとしても、定期的に加工品づくりについて支援していきます。

JA津野山シシトウ部会現地検討会の開催



現地検討会の様子



土佐甘とう

5月1日、JA津野山シシトウ部会の現地検討会が、津野町船戸と梶原町横貝の2ヶ所で開催されました。

今年度からJA津野山シシトウ部会には、土佐甘とう・味シシの2品目が加わり、部会員数はシシトウ13戸、土佐甘とう26戸、味シシ3戸の計42戸になり、JA津野山で最も人数の多い部会となりました。

会では、今年度から栽培を始められる方も多いことから、JA営農課から、定植から初期の基本的な管理について、講習を行いました。また、振興センターからは、シシトウ類の主要な病害虫について、情報提供を行いました。

土佐甘とうについては、JA津野山管内では去年から本格栽培が始まった品目で、JAと振興センターでは、試験ほを設置し、現地検討会で生産者の方と検討を行い、栽培技術の確立を進めております。

農業振興センターは今後も、栽培技術の向上による収益性の向上のための支援を行っていきます。

JA津野山ミョウガ部会現地検討会の開催



検討会の様子

4月17日・20日、JA津野山ミョウガ部会の現地検討会が、津野町岩土と梶原町下西川の2ヶ所で開催されました。

ミョウガはJA津野山の販売額の約3割を占める基幹品目であり、若い新規就農者の方も数名おられます。

検討会にはミョウガ部会員18名全員に参加して頂き、土耕・養液栽培の水管理と、ハウス管理での栽培環境作りについて検討を行いました。

また、数戸の方のほ場において生育調査を現在実施しており、その途中経過や結果を今後の現地検討会等で報告し、生産者の方々の栽培技術の向上に繋げていきたいと思っています。

振興センターでは今後も、生産者の栽培・管理技術の向上による反収増加のための支援を行っていきます。

1 情勢報告

いげの 神母野営農組合の設立総会開催



設立総会

昨年10月からの集落座談会や先進地視察を通して、集落営農の取組を検討してきた中土佐町大野見のいげの神母野集落で、4月28日、集落営農組織「神母野営農組合」（組合員20名）が設立されました。

設立総会では、規約やビジョン、事業計画の説明の後、「大きくはばたいていこう」、「わたしたちの目指すものの実現にむけブランド米に取り組んでいこう」と決意表明がされました。

組合では、『自然豊かな神母野の里を未来につなぐ農の絆』を合言葉に、24年産の米の乾燥・調整作業から受託作業を開始し、地域の農業の維持、発展に取り組んでいきます。

振興センターでは、今後も組合活動の支援をしていきます。

JA土佐くろしお雨よけシシトウ部会現地検討会の開催



検討会の様子

5月23日、JA土佐くろしおの雨よけシシトウ部会の現地検討会が開催されました。

振興センターからは今後の栽培管理について説明を行いました。今後のかん水管理などについて質問が出され、部会員同士でも意見を出しあいながら検討しました。

また、今園芸年度に促成栽培のピーマン、シシトウで効果がみられた土着天敵のタバコカスミカメについても特性や活用する際の注意点について情報提供を行いました。

今後、振興センターでは促成と雨よけの間で天敵を融通しあう、リレーの可能性について検討をすすめていきます。

津野町直販所生産農家のトマト栽培講習会の開催



講習会の様子

5月18日、津野町の直販所に出荷している農家向けに、直販所主力品目であるトマトの栽培講習会を開催しました。

これは、津野町の直販所（アンテナショップ含む5店舗）の販売力強化を図るもので、今回は2回目になります。

前回（2月27日）同様20名を超す生産者が参加し熱心に「吊り下げ誘引方法」、安全・安心な農産物出荷について理解を深めました。

振興センターは今後も、直販所主力品目について基礎的な技術から収量品質向上、農薬の安全使用等について、講習会を開催していきます。